

令和4年度 学校法人 むかわ文化学園 むかわひかり認定こども園 園評価（自己評価）

評価 3：よくできている 2：まあまできている 1：あまりできていない 0：できていない

1 保育の計画性

	内 容	評価点
①	園の教育理念や教育方針を理解する	2. 3
②	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、それをもとに保育計画を立てる	2. 2
③	日・月案は、園の方針、教育要領、教育課程、幼児の実態をもとに作成している	2. 5
④	クラスの保育・教育指導はクラス担任が十分話し合い、協働体制で取り組みをする	2. 7
⑤	幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をする	2. 0
⑥	季節の変化に応じた環境構成をする	2. 3
⑦	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をする	1. 9
⑧	自分の保育を評価し、反省して次の保育に生かす	2. 3
<p>～主な成果（よくできたこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任同士話し合いながら保育を進め、フォローし合いながら保育を進める事が出来た。また、月案会議等では、保育の反省点や改善点を十分に話し合い、保育者同士意見を共有し合い、協力しながら保育を行うことができた。 ・環境を整えながら子ども達の意欲を持たせられる遊びを取り組むことができた。また、日中の活動で、季節の変化を感じ取ってもらえるよう、保育室の中を装飾したり、作ったり、季節に咲いた花などを、子ども達と飾ったりして季節の変化を楽しむことができた。 		
<p>～課題（今後やるべきこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の個性が強く、なかなか計画通りには進まなかったが、一人一人の関わりを大事にし、その子にあった対応を見つけ、関わりながら集団生活ができればと思う。 ・コロナウイルスにより、異年齢との関わりが少なかったので、活動の中で関わりを持てるよう外遊びなどで声掛けしていきたい。 ・エアコンの清掃、整理整頓等が出来ていなかったため、今後は清潔に保てるように気を付ける。 		

2 保育の在り方、幼児への対応（3～5歳児の担当者）

	内 容	評価点
①	朝の登園時は視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確認する また、新型コロナウイルス感染症予防の健康観察を実施する	2. 9
②	幼児の話をよく聞き、言葉にならない思いや、サインを受け止めるよう心掛ける	2. 3
③	幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛ける	2. 7
④	幼児を誉めたり、励ましたり、目あてをもたせるような言葉がけをする	2. 1
⑤	他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れる	1. 9
<p>～主な成果（よくできたこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に目を向け体調の変化や、気持ちの落ち込みがあるときは、声を掛けたり話を聞いた。 ・子ども達とスキンシップを取り、楽しく過ごすことができた。 		
<p>～課題（今後やるべきこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児との関わりをコロナの関係で、あまり実施することができなかった。また、成長する中での刺激や影響の受けにくさを感じるため、たてわりの大切さを実感し、どうにか関わられるような場を作ってあげたい。 ・一人一人との言葉がけ、スキンシップを今後も意識しながら、日々の保育で気を付けなければと思う。 		

3 保育の在り方、乳幼児への対応（0～2歳児の担当者）

	内 容	評価点
①	朝の登園時は視診を大切にして、乳幼児の健康状態を確かめる また、新型コロナウイルス感染症予防の健康観察を実施する	2. 6
②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど、適切な処置を行いすぐに家庭に連絡する	2. 8
③	家庭と連絡をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ食への意欲を育てる （0歳児）	3. 0
④	一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせて、オムツ交換をしたり トイレに促している （1～2歳児）	2. 4
⑤	乳幼児の話をよく聞き、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう心掛ける	2. 4
⑥	月指導計画により、一人ひとりの乳幼児の発達課題について見通しをもって保育する	2. 5
～主な成果（よくできたこと）～		
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの視診を十分に行い、毎日の体温を保護者に確認した。また、様子の変化から、発熱には早めに気が付き、対応を取ることができた。 ・子ども達とスキンシップを取りながら、関わりを深めていった。 ・離乳食では保護者に食べられる食品を確認し、給食の職員と連携を取り進める事が出来た。 		
～課題（今後やるべきこと）～		
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発達を理解し、尊重し、乳幼児に合った、ゆったりとした保育と十分に援助をしてあげる事が最適。 ・保育者の思いが先走らないように、一人一人の成長を大切にし、発達状況や個性を受け入れ、認めながら、保育をしていく。 		

4 保育者としての資質や能力、良識、義務

	内 容	評価点
①	保育をとおして保護者との信頼関係を築くよう努める	2. 3
②	保育時間外でも、保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がける	2. 5
③	職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る	2. 7
④	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全にも気をつける	2. 7
⑤	教育・保育業務を効率よく遂行するため、締め切りのある行事計画や会議等の提出物、会議や打ち合わせの時間をきちんと守る	2. 3
⑥	子どものこと、クラスの出来事などで必要な事は園長や主任に報告、連絡、相談する	2. 7
⑦	上司の指示、命令には責任を持って実行し、他の職員とコミュニケーションをとり、チームワークを大切に し対応する	2. 5
⑧	幼児の教育・保育に関する情報を日頃から得ようと努める	2. 3
～主な成果（よくできたこと）～		
<ul style="list-style-type: none"> ・担任同士の、報告・連絡・相談を心がけより良い保育をするよう努めた。 ・保育者同士のチームワークを大切に、保育業務に努めてきた。 ・保育時間外であっても、保護者を見かけたら挨拶を交わしたり、常にこども園の職員として見られていることを意識しながら過ごした。 		
～課題（今後やるべきこと）～		
<ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上に親しみやすい雰囲気づくり、声掛けをして信頼関係を気付けるようにしたい。 ・業務の優先順位をきちんと見極めて、見通しをもって進めていく。 ・様々な考えの保護者がいるため、とても難しいが、寄り添いながら保育していきたい。 		

5 保護者への対応・守秘義務

	内 容	評価点
①	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝える	2. 4
②	普段から親しみを込めた挨拶や会話を心がけ、保育者として良識ある対応をする	2. 6
③	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らさない	2. 9
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモするなどきちんと対応する	2. 5
⑤	保護者からのクレームがあった場合は、謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談する	2. 6
<p align="center">～主な成果（よくできたこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を元気よく行い、保護者の意見を受け止め、言葉遣いや礼儀に気を付けながら、対応を行っている。 ・お迎えの時など、気付いたことや子ども達の成長した様子などを伝え、コミュニケーションをとるよう心掛けた。 ・保護者の対応は本当に難しいため、上司に相談しながら対応できてよかった。 		
<p align="center">～課題（今後やるべきこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おたよりノートが思ったより書けなかったので、もう少し一人一人のことを書いていくようにする。 ・保護者からの悩みや相談に的確に答えられるよう知識を得る。 ・休みの連絡をメモするのを忘れてしまうことがあったので、忘れずにメモを取る。 		

6 地域の自然や社会とのかかわり

	内 容	評価点
①	園外散歩や公園の活用をとおして、地域の人々と親しく挨拶を交わす	2. 8
②	地域の自然や公共施設を指導計画の中で位置づけて活用する	2. 4
③	実習生や中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、親しみを込めた挨拶や会話を心がける	2. 3
④	保育・教育実習生には、園での実習が学び多きものになるよう、丁寧な指導を行う	2. 2
<p align="center">～主な成果（よくできたこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が意識的に、地域の人々と挨拶を交わすことで、子ども達も自然と挨拶が身に付き、積極的にしていた。 ・実習生や中高生が、保育の仕事に興味を持ってもらえるよう、声掛けや挨拶を心掛けた。 ・たんぼぼ公園、スケートリンク場、花園公園、法城寺、永安寺、たこ公園等をよく活用し自然と触れ合って遊ぶ事が出来た。 		
<p align="center">～課題（今後やるべきこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習担当者になっていない時は、配慮が足りていないこともあった。どんな立場でも受け入れる側として、明るく会話したり、笑顔で挨拶を交わしていきたい。 ・実習生に指導を行う際は、学びが広がる実習へとつながるように、丁寧に指導を行う。 ・高校生への対応をもう少し丁寧にできると良かったが、バタバタしてしまったので、事前に流れなどを説明できるようにしておく。 		

7 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

	内 容	評価点
①	研修会等には、目的意識を持って参加し、報告書は必ず提出する	1. 5
②	自分の保育については、自己課題を持ち計画や反省を行う	2. 1
③	園の遊具・教材の利用方法を知って、危険のないよう活用する 施設設備の安全確保及び子ども達の保育・教育の安全指導の取り組み（事故防止チェック：年4回）	2. 6
④	子どもを取り巻く様々な情報に関心を持ち、保育に役立てる	2. 1
⑤	子ども達の安心、安全に関する危機管理に興味や関心を持って取り組む	2. 5
～主な成果（よくできたこと）～		
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修に参加し、発達障害や気になる子について、理解できる部分が沢山ありたためになった。また、今年 は研修を受ける事が出来て良かった。 ・研修会では他園の保育者の方と意見を出し合い、学びを深め、報告書を期間内に提出することができた。 ・安全に配慮しながら様々な玩具に触れて遊びを楽しめるよう考え、保育することを心掛けた。 ・明確に自己課題を持ち、失敗点は次に活かせるよう、しっかりと反省した。 		
～課題（今後やるべきこと）～		
<ul style="list-style-type: none"> ・月の話し合いで、日々の保育がマンネリ化しないように、担任同士触れ合い遊びや、新しいものを取り入れ、楽し く過ごせるよう知識を身に付けていきたい。 ・自分の保育について、自己課題を持ち計画や反省を行うこと。 ・保育者としての責任を持ち、子どもの安全に気を配る。 ・日々の保育に満足せず、あたらしい事への情報収集をしながら、引き出しを増やし、知識を身に付け、子ども達に 色々な経験が出来るようにしたい。 		

8 地域における子育て支援（子育て支援担当者）

	内 容	評価点
①	子育て支援事業について、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明する	2. 0
②	親しみやすい雰囲気心を心がけ、利用者に積極的に声をかける	2. 0
③	講座等で子育ての学習の機会を設けて、親の支援ができる場を作る	1. 5
④	利用者同士の関係が作りやすいよう配慮して、遊びや場の設定する	2. 0
⑤	どの利用者にも公平に接する	3. 0
～主な成果（よくできたこと）～		
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の様子を見ながら、平等に声を掛け、コミュニケーションをとった。 ・行事についてはウイークという形で、3～4日設定したことで、参加しやすくなったし、参加者も増えた。 ・リーダーさんにラインでの連絡や行事の参加、集約、調整をしてもらったことで、全体にいきわたり計画が進めやす くなった。 		
～課題（今後やるべきこと）～		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで講座等ができなかった為、今後は親支援の場として、母親の興味のあること（子育てについてだけでなく、 趣味的なことも含めて）、制限の中でできる方法等を考えていきたい。（近隣の町村の実施内容等を把握し参 考にしていきたい。） ・講師を頼んでの講座ができなかったので、母親のための制作を行った。今後はできる範囲の内容を考えて提案して いきたい。 		

むかわひかり認定こども園の教育・保育目標

- ・ 元気で明るい 子ども（体）
- ・ 思いやりのある 子ども（徳）
- ・ 自分で考え 行動する子ども（知）

〈 具体的な取り組み 〉

- 体・・・COT（コーディネーショントレーニング）、リズム遊び、散歩（歩く）、サッカー、園庭や公園での遊びや遊具の活用、プール活動等で丈夫な体を作る。
- 徳・・・たてわり保育、様々な行事（老人ホームの訪問や町内各種イベントの参加を含む）、友達との自由遊び、花や野菜の栽培、昆虫などの飼育等で思いやりの心を育てる。
- 知・・・英語、制作活動（粘土、工作、絵画等）、手遊び、歌やダンス、読み聞かせ、様々な玩具類の活用、町内めぐり、見学旅行、虫歯予防教室、食育教室、交通安全教室等で豊かな心を育てる。

1、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

「子ども子育て関連3法」に基づく「子ども・子育て支援新制度」が平成27年度から本格的にスタートし、本園では幼稚園教育要領・保育所保育指針と分かれた教育・保育要領を幼保連携型認定こども園教育・保育要領として一本化した。今年度は保育計画を随時見直しすることで指導方法の工夫・改善を図り実践してきており、継続した取り組みを進めたい。

2、外部指導者の招聘

今年度もサッカー教室がコロナ感染症により開催できなかったが、COTや英語、食育などで、外部から講師を招き実践してきた。子ども達にとって、外部指導者からの専門的指導は大きな刺激となっていることから、新たな教室の開催も検討したい。

3、保育者会議

全保育者を対象とした保育者会議（月一回）を実践して6年目になる。翌月の行事の提案・検討や終了行事の反省事故防止に向けた取り組みや各クラスの状況報告の他に研修時間も設定しているが、今年度もコロナウイルスの関係で各種園外研修会には参加できず、教職員としての専門性と資質の向上には足りなさも感じるが、オンライン研修を計画し園内研修で補完することができた。

また、保育者会議には資料を事前配付し、職員は目を通してから会議に臨むようにし、会議を効率よく実施しており、今後も続けていきたい。

※ 保育者会議の活性化を図るため、最低一人一発言を目標に取り組みを進めている。

（ 積極性や主体性は、園の活性化につながり、協働体制を創り出す ）

4、次年度にむけて

今年度の成果と課題を次年度に生かしていきたい。